

「基礎ゼミ」の教育的効果について

永田照子，菅田圭次，鈴木万里，大島 武

1. はじめに

本学ではビジネス実務教育を中心にしてきたため，従来は目的意識の明確な学生がほとんどを占めていた。しかし，近年は入学生の多様化に伴い意識もさまざまに変化し，既存のカリキュラムだけでは十分に教育効果があがらない例も見られるようになってきた¹⁾。そこで，各教科とは別に，学生生活を有意義に送るための自己啓発的な内容を盛り込んだ授業を設定すべきとの提案が，教員の間からなされるに至った。その後，検討を重ねて平成13年度より，教養基礎科目の中に1年次の必修として「基礎ゼミ」という科目を新設して，統一的な内容で，各クラスアドバイザーが中心となって担当することになった。年度末にはアンケートを実施して，学生の反応を調べ，次年度に向けてよりよいプログラムで対応できるようにした。本報告は，このアンケートの集計結果をまとめたもので，学生たちが何に関心をもち，何を必要としているかについて，示唆を与えてくれる。また，平成14年度の前期終了時にも同様のアンケートを実施したので，比較，検討する。

2. 「基礎ゼミ」の目的

- 1) 短大生活を送る際の目的意識を育てる。
- 2) 14年間にわたる学校生活の最終段階として，自分の生き方について考える機会をもつ。
- 3) 情報収集の方法や，レポートの書き方など，各教科では十分な時間を取って指導できないスキルの習得をめざす。
- 4) ディスカッションやプレゼンテーションを通じて，自分の意見をまとめてわかりやすく提示する練習をする。
- 5) 自分の適性や資質を見極めて，適切な進路選択につなげる。

- 6) クラスのなかで、役割を決め責任を果たして、組織運営の円滑な方法を学ぶ。

3. 平成 13 年度「基礎ゼミ」について

(1) 内容

1 年間の実施内容は以下のとおりである。全学的な行事も基礎ゼミの一環と見なした。木曜 2 限に設定し、各クラスルームではアドバイザーが担当、大教室では学内の教員または学外の講師、卒業生に講演を依頼した。

- 4 月 12 日 履修指導、履修届の記入方法など（各クラスルーム）
- 4 月 19 日 学外オリエンテーション（七沢自然教室で 1 泊 2 日）
- 4 月 26 日 学友会各委員の選出（各クラスルーム）
- 5 月 10 日 レポートの書き方について／ミニ・レポート（大教室）本学教員
- 5 月 17 日 図書館見学およびスポーツフェスティバル準備
- 5 月 24 日 キャンパス・セクシュアル・ハラスメントについておよび学園祭の催し物決定（各クラスルーム）
- 5 月 31 日 女性のライフコースを考える（大教室）本学教員
- 6 月 7 日 前回の講演をふりかえって一ディスカッションとミニ・レポート（各クラスルーム）
- 6 月 14 日 自己の美しい表現方法—カラーコーディネート—（大教室）学外講師
同時進行で個人面談（各クラスルーム）
- 6 月 21 日 前週と同じプログラム
クラス半分は大教室、残り半分はアドバイザーが個人面談を実施
- 6 月 28 日 情報収集の方法と新聞の読み方（各クラスルーム）
- 7 月 5 日 避難訓練（予告はしない）
- 7 月 12 日 期末試験の諸注意と、夏期課題レポートの説明（各クラスルーム）
- 9 月 20 日 夏期課題レポートの回収および後期開講科目の追加履修説明

- 9月27日 将来の進路を考える（大教室）学外講師
- 10月 4日 前回の講演をふりかえって－ディスカッションとミニ・レポート－（各クラスルーム）
- 10月11日 様々な分野で活躍する本学卒業生に学ぶ（大教室）
卒業生7名
- 10月18日 前回の講演を振り返って－ディスカッションとミニ・レポート－（各クラスルーム）
- 10月25日 学園祭の準備（各クラスルーム）
- 11月 1日 女性の仕事と職場－金融系－（大教室）卒業生
- 11月 8日 女性の仕事と職場－情報系－（大教室）学外講師
- 11月15日 前回，前々回の講演を振り返って－ディスカッションとミニ・レポート－（各クラスルーム）
- 11月22日 進路ガイダンス－就職・編入・その他－（大教室）本学教員
- 11月29日 就職模擬試験（大教室）本学教員
- 12月6日 2年次生による就職・編入体験発表（大教室・小教室）
- 12月13日 まとめ・冬期課題レポートの説明・アンケート実施（各クラスルーム）

（2） 評価

出席状況，ミニ・レポート5つと課題レポート2つにより総合的に評価した。基準は全クラスで統一し，出席50点，レポート50点，計100点で採点した。なお，ミニ・レポートおよび課題レポートはアドバイザーが点検し，コメントをつけて返却し，指示どおりに形式が整っていない場合には書き直して再提出させた。基準に満たない学生は不合格とし，2年次向けの再履修クラスを設けた。

夏期課題レポートは以下のとおりである。

下記の中からひとつ選択して，2000字程度で論述する。

1) 「レポートの書き方」の時にミニ・レポートを作成した話題（環境問題，少子高齢化問題，情報化社会，経済のグローバル化）について，8月1日から31日までの1ヶ月分の新聞（読売，朝日，毎日，産経のいずれも朝刊のみ）を読んで，関連する記事を集める。レポートには記事のコピーをつけて，内容を要約し，それについてコメントを加える。環境問題のように，頻繁に取り上げられる話題については，大気，水質，土壤汚染な

ど、限定した問題に絞ってもよい。

2) 8月1日から15日までの新聞、(読売、朝日、毎日、産経のいずれも朝刊のみ)の中から2紙を選び、第二次世界大戦関連の記事を集めて比較し、どのように論調が異なるかを調べる。記事の内容を要約し、それについてコメントを加えコピーをつけてレポートとする。

3) 人の生き方に関連する本2冊を読んで、内容を要約し、それについてコメントを加えてレポートとする。

冬期課題レポートは以下のとおりである。

下記の中からひとつ選択して、2000字でいどで論述する。

- 1) 米国のアフガニスタン空爆をどう考えるか。
- 2) 愛子内親王のご誕生—一女帝は認められるべきか。
- 3) 狂牛病問題の責任はどこにあるか。
- 4) 不況脱出の方法—失業率5.3%をどう切り抜けるか。

(3) アンケート調査について

調査は基礎ゼミの最終回12月13日にクラス単位で実施した。記名式で91名分を回収した。結果は下記のとおりである。(付表1 アンケート用紙参照)

1.の項目は、行事やディスカッションを除いた、講演などのプログラムについて、学生がどの程度、充実度や満足度を感じたかを尋ねたものである。

加重平均値からわかるとおり、もっとも関心が高かったのは、卒業生7名の話であった。7名の内訳は、ビルの受付から客室乗務員、チーフパーサーを経て、出産を機に退職し、現在はネイルアートの教室を開いている卒業生をはじめ、メーカーの経理職、メーカーの部長秘書、客室乗務員、就職せずに結婚し、通信制大学法学部に在学して司法試験をめざして勉強中の卒業生、そして東京工芸大学芸術学部編入した卒業生2名である。職種や経歴がさまざまだったことも、興味を集めた一因であったと考えられる。また、学生にとって卒業生は身近な存在であり、自分たちにも可能な目標となりうるので、体験談には真剣に聞き入ったようであった。授業終了後に、卒業生に話しかけたり質問する学生もかなり見られた。自由記述欄でも卒業生の話に対する感想やコメントがもっとも多かった。立派な先輩に対する憧れや関心のほか、「何を始めるにも遅すぎることはない」という卒業生の言葉に励

表1 (平成13年度)

1. 基礎ゼミで実地した以下の内容について、感想を次の番号で選び、該当する番号を○で囲んでください。

- 4 たいへん役に立った、または満足した
 3 役に立った、または満足した
 2 あまり役に立たなかった、またはあまり満足しなかった
 1 役に立たなかった、または不満であった
 0 欠席した

	4	3	2	1	0	無記入	加重 平均値*
講演 レポートの書き方	38 (名)	41	3	0	9	0	3.4
講演 女性のライフコース	10	55	12	1	11	2	2.9
講演 カラーコーディネート	35	32	19	1	4	0	3.2
クラス 情報収集と新聞の読み方	3	42	36	2	7	1	2.6
講演 進路を考える	18	40	21	1	7	4	2.9
講演 卒業生7名のお話	57	22	4	0	7	1	3.6
講演 卒業生(金融)のお話	23	36	17	3	12	0	3.0
講演 女性の仕事と職場	17	46	18	2	7	1	2.9
講演 2年生体験発表会	45	28	7	0	11	0	3.5

* たいへん役に立った、または満足した4点、役に立った、または満足した3点、あまり役に立たなかった、またはあまり満足しなかった2点、役に立たなかった、または不満であったを1点として算出した平均値

まされたという意見もあった。一方、同じ卒業生のお話でも金融系の話題がそれほど関心を集めなかったのは、希望職種もはっきりわからない学生にとって、銀行業務の具体的な内容が難しく感じられたためであろう。しかし、金融系への就職が増えている現状を考えれば、銀行の仕事がどのようなものかを知る機会は貴重であると言える。

次いで、2年次生による体験発表に関心が高かった。就職内定者としてはホテル、金融、情報、サービス業、帰省先での就職と多様な進路を揃え、編入予定者としては本学芸術学部のほか、他大学編入が決定している学生を集め、それぞれ教室を分けて実施した。在学生の具体的な体験談が多かっただけに、就職活動もしくは編入準備を間近に控えた1年次生には参考になる内容であったと考えられる。単に就職活動のノウハウだけでなく、「考え方を聞いたのがよかった」や「会社や職種のイメージが少しずつふくらんでき

た」などの感想もあった。ただし、「もっといろいろな職種のお話を聞きたかった」「アパレル関係について知りたかった」という反応もあり、具体的に希望職種が決まってい、該当する体験談がなかった学生にとっては少々物足りなかったかもしれない。あらゆる職種、業種について内定者を集めるのは不可能である以上、代表的な分野5～6種に限られるのはやむをえず、また妥当な選択であると言える。いずれにせよ学生たちにとって1年後の自分を具体的にイメージするためには、効果的であったと考えられる。

3番目には、レポートの書き方が役立ったという結果であった。自由記述欄には、「これまでレポートの書き方について学ぶ機会がなかったので、勉強になった」との意見が複数見られた。ミニ・レポートを頻繁に課したことも、レポート作成の練習として効果的であったと考えられる。アドバイザー以外の教員からも、形式の整ったレポートが例年より多いとの反応があり、実際に役立ったことが確かめられた。

4番目には、カラー・コーディネートが関心を集めた。「好きな色と似合う色は違う」という話を初めて聞いて、服を選ぶ時に色を意識するようになったという学生もいた。ただし、「あまり主旨がよくわからなかった」という反応もあり、学生によって受け取り方がかなり異なることをうかがわせた。2回に分けて約60名ずつ受講させたが、もっと少人数で実施できれば、自分に似合う色を探したり相談したりして、おそらく満足感もはるかに高くなったであろう。

続いて、「女性のライフコース」「女性の仕事と職場」「進路を考える」となり、少し抽象的な内容になると、学生の満足感や関心がやや低下することがわかる。しかし、すぐに役立つトピックだけでなく、5年後、10年後に改めて進路や生き方を考える際に参考になる内容もまた教育的に重要であるとの認識から、これらの講演は次年度も引き続き実施することにした。

「情報収集と新聞の読み方」はもっとも満足度が低かった。ふだん新聞を読む習慣がない学生が多いために、難しく感じたと思われる。しかし、「新聞などめったに読まないのに、読み方はとても参考になった」との意見もあった。新聞をとっていない家もあるということが初めてわかった。特に一人暮らしの学生は新聞をとらないので、読む機会もないらしい。したがって基礎ゼミで扱うことには意味があると考えられる。

「他にどんな内容の話を聞きたかったか」という自由記述欄には、「映画鑑賞や観劇を取り入れてほしい」「皆が書いたレポートを発表してほしい。他の意見や考え方を知りたい」など具体的な提案もあり、一部は次年度に実施

の方向で検討が進んだ。

2.の項目は、基礎ゼミを1年間受講したことによって、学生の考え方や意識に変化があったかどうかを調査するために実施したものである。

加重平均値がもっとも高かったのは、「将来どんな仕事につけばよいか考えるようになった」、次いで、「フリーターではなく、きちんと就職したいと思うようになった」と「目標をもって残りの短大生活を送ろうという気になった」が続く。目的意識を高めて、短大生活を有意義に送るための動機付けを行うことが基礎ゼミの大きな目標であったので、期待通りの効果をあげて

表2 (平成13年度)

2. 基礎ゼミを1年間受講し、入学時と比較して、考え方に变化があったかどうかについて、1～4の該当する番号を選んで○で囲んで下さい。

4 非常にそうだ 3 かなりそうだ 2 あまりそうではない

1 全然そうではない

	4	3	2	1	無記入	以前から そうだ	加重 平均値
新聞を読むようになった	3 (名)	18	52	17	0	1	2.1
女性の生き方に関心を持つようになった	16	45	27	3	0	0	2.8
将来どんな仕事につけばよいか考えるようになった	44	39	7	0	0	1	3.4
その日その日を楽しく生きられればよいと思うようになった	18	33	30	9	0	1	2.7
フリーターではなく、きちんと就職したいと思うようになった	40	32	17	1	0	1	3.2
現在の自分に対して、焦りを感じ始めた	31	38	16	5	0	1	3.1
早く結婚して育児に励みたいと思うようになった	5	23	40	22	0	1	2.1
自分のめざす方向性が見え始めた	7	29	46	8	0	1	2.4
自分の求めているものが何かわからなくなった	9	24	41	16	1	0	2.3
目標をもって残りの短大生活を送ろうという気になった	34	42	14	1	0	0	3.2

* 非常にそうだと4点、かなりそうだと3点、あまりそうでないを2点、全然そうではないを1点として算出した平均値

いることがわかる。しかし、「以前からそうだ」と欄外に書いた学生も少数ながら見られ、もともと目的意識をもって入学した学生には「何を今さら、よけいな世話」と感じられた部分もあったかもしれない。もし選択肢に「以前からそうだ」という項目があれば、データの結果が多少変わっていたかもしれない（平成14年度のアンケートでは付け加えた）。

次に、「現在の自分に対して焦りを感じ始めた」と「女性の生き方に関心をもつようになった」である。自分の生き方について考える機会をもたせることも基礎ゼミの目標であったので、この点でも効果をあげていることがわかる。自分の将来像だけではなく、女性全般についての生き方にも関心を示すようになれば、さまざまな可能性を思い描くことができ、より視野が広がるであろう。

しかし反面、自分の将来について気にはなるものの、何をしてよいかわからないと諦めてしまう傾向も一部に見られる。「その日その日を楽しく生きられればよいと思うようになった」という反応が6番目に現れ、続いて正反対の内容である「自分の求めているものが何かわからなくなった」が「自分のめざす方向性が見え始めた」とほぼ同ポイントとなっているのは、自分の適性や希望をある程度見きわめられた学生と、そうでない学生が、同じくらいの比率で混在するという意味に解釈できる。「早く結婚して育児に励みたいと思うようになった」は、もともと専業主婦志向の学生も含まれるだろうが、卒業生や上級生の活躍ぶりに圧倒されて、自分にはとても無理だと消極的になってしまった学生の方が多いことと考えられる。

もっともポイントが低かったのは、「新聞を読むようになった」であった。時事問題への関心もそれほど高くなく、情報源が多様化し、活字離れといわれる世代だけに、なかなか新聞に関心を示すまでには至らないらしい。しかし、だからこそ基礎ゼミで扱う意味があるとも考えられる。ちなみに、夏期課題レポートも指定された話題4種類から一つを選び関連する新聞記事を集めてまとめるという主旨であった（課題レポートについては後述する）。

基礎ゼミ全体についての感想について（自由記述式）

アンケートの結果から判断して全体の8,9割は肯定的な反応であった。「将来について考えるようになった」「自分を見つめなおす良い機会だった」「今まで考えたことのないことをいろいろ考えさせられた」「人の考えや生き方を聞くことで、自分の考え方の幅が広がった気がする」「幅広い範囲の授業内容なので、人生や生活、生きることについて深く考えることができた」

「卒業生話を聞いて具体的に自分の将来が少しずつ見えてきたような気がする」「いろいろなことに挑戦したいと思うようになった」「レポートを書くのが慣れてきた」「毎回どんな話が聞けるのか楽しみだった」「1番好きな授業だった」「授業という堅い感じがしなかったので、リラックスして聞くことができ、いろいろなことをじっくり考えられる良い機会だった」などが代表的な意見である。

一方、少数ながら否定的な反応もあった。「興味のもてる時とそうでない時の差が大きかった」「いつも同じ内容のような気がした」「将来のことを早く決めないと、焦ってきた」「レポートが多くてたいへんだった」「就職ガイダンスのような内容だった。別にすべき」など。

また、提案もあった。「講義をもとに学生同士で話し合うことをしたかった」「クラスで就職や女性の仕事について話し合いたかった」など。原則として、講義の次週にはクラスでディスカッションをした後、ミニ・レポートを時間内に仕上げて提出することになっていた。しかし、意見が出ない場合には十分に話し合うまでにはいたらないこともあった。ディスカッションの効果的な運営については今後、工夫の余地があると思われる。

(4) 「基礎ゼミ」の教育的効果

全体としては、基礎ゼミの目標は十分に達成されたと考えられる。学生の意識向上や生き方について考える機会を提供する点では特に効果があった。レポートの書き方にも慣れて、就職ガイダンスなどでもその成果が現れているという。また、クラスごとの授業で連帯感が生まれたために、学園祭の積極的参加や貢献度も例年に比べて良好であった。中には「高校みたい」と反発する学生もごく少数見受けられたようだが、基礎ゼミの内容やクラスのまとまりに満足している学生が多かった。ここ数年は、必修科目が減って選択科目が増えたために、クラスが集まる機会が少なくなっていた。それだけに、基礎ゼミによってクラスの学生たちが毎週顔を合わせて親しくなり、よい刺激を与え合うきっかけになったものと考えられる。

4. 平成14年度「基礎ゼミ」について

(1) 内 容

平成13年度の実施内容を踏まえて、14年度にはいくつかの変更が加えられた。健康管理センターから、エイズの感染が徐々に広がっているにもかか

わらず、正確な情報に接する機会が少ないという指摘を受けて、女性のからだと健康についての講演を追加した。また、自己表現の方法として、カラー・コーディネートのお話から、TPO に応じたメイクアップという化粧法の講演、実演に変更した。また、勉学への意欲を高めるための講演を追加した。前期の実施内容は次のとおりである。

- 平成 14 年 4 月 11 日 履修指導、履修届の記入方法など（各クラスルーム）
4 月 18 日 学問のススめ（大教室）本学教員
4 月 25 日 学友会各委員の選出（各クラスルーム）
5 月 2 日 レポートの書き方について／ミニ・レポート（大教室）本学教員
5 月 9 日 図書館見学およびスポーツフェスティバル準備（各クラスルーム）
5 月 16 日 女性のからだと健康（大教室）学外講師
5 月 23 日 スポーツフェスティバル（体育館）
5 月 30 日 キャンパス・セクシュアル・ハラスメントについて（大教室）本学教員および学園祭の催し物決定（各クラスルーム）
6 月 6 日 女性のライフコースを考える（大教室）本学教員
6 月 13 日 前回の講演をふりかえって（各クラスルーム）
6 月 20 日 TPO に応じたメイクアップ（大教室）学外講師
同時進行で 個人面談（各クラスルーム）
6 月 27 日 前週と同じプログラム
クラス半分は大教室，残り半分はアドバイザーが個人面談を実施
7 月 4 日 避難訓練（予告はない）
7 月 11 日 学期末に当たって・夏期課題レポートの説明（各クラスルーム）

夏期課題レポートは以下のとおりである。

新聞に掲載されている各種記事の中から、興味のあるテーマを選び、その記事に関するレポートを作成する。なお、大きなテーマの場合には、サブ・タイトルをつけてその観点から絞ること。記事の切抜きと内容の要約をつける。1 頁 40 字×30 行，2 枚以上。

後期にレポートの発表を各クラスで行い、学生による相互評価を実施する。すぐれたレポートは学園祭で展示する。

(2) アンケート調査について

調査は基礎ゼミの前期最終回7月11日に実施した。記名式で110名分を回収した。結果は下記のとおりである。

1. 前期終了の時点で、もっとも関心を集めたのは、「レポートの書き方」、ついで「TPOに応じたメイクアップ」であった。すぐに役立つ話題の満足度が高いという結果は平成13年度と同様である。「学問のススメ」、「女性のからだと健康」がそれに続き、新しく追加した内容が比較的好評であったことがわかる。その後、「キャンパス・セクシュアル・ハラスメント」、「女性のライフコース」がほとんど同率で並び、「情報収集の方法と新聞の読み方」は関心がもっとも低かった。

昨年と同じ内容で行われた「レポートの書き方」「女性のライフコース」

表3 (平成14年度)

1. 前期の基礎ゼミで実施した以下の内容についての感想を次から選び、該当する番号を○で囲んで下さい。

- 4 たいへん役に立った、または、たいへん満足した
- 3 役に立った、または満足した
- 2 あまり役に立たなかった、または、あまり満足しなかった
- 1 役に立たなかった、または、不満であった
- 0 欠席した

	4	3	2	1	0	無記入	加重 平均値
講演 学問のススメ	31 (名)	56	19	1	2	1	3.1
講演 レポートの書き方	60	40	6	0	4	0	3.5
講演 女性のからだと健康	31	49	19	2	6	3	3.1
講演 キャンパス・セクシュアル・ハラスメントについて	20	60	18	4	7	1	2.9
講演 女性のライフ・コースを考える	15	63	18	5	8	1	2.9
講演および実演 TPOに応じたメイクアップ	47	36	14	1	10	2	3.3
授業 情報収集と新聞の読み方	7	49	35	7	5	7	2.6

については、加重平均値が昨年度とほぼ同じ結果となっているので、学生の満足度については、平成13年度と14年度で大差ないと考えられる。なお、自由記述欄にはあまり記入が見られなかった。後期に「卒業生のお話」や「2年次生の体験発表」など平成13年度にもっとも満足度の高かった内容が予定されているので、後期終了時に調査すれば、高い加重平均値が出て、記述も増えると予想される。なお「情報収集の方法と新聞の読み方」は、避難訓練が開始されるまでの20分ほどで行われたため、前年度との単純な比較はできない。

2. 半年間の考え方や意識の変化については、選択肢に昨年度にはなかった項目「以前からそうだ」を追加したために、正確な比較はできない。しかし、「フリーターでなく、きちんと就職したいと思うようになった」がもっとも加重平均値が高く、また「以前からそうだ」の人数も最多であったことが、今回の特色と言えるであろう。就職意識の高まりという点で効果があがっていることが予想される。次に、「エイズや性に関する正しい知識や情報が得られた」「目標をもって残りの短大生活を送ろうという気になった」「将来どんな仕事につけばよいか考えるようになった」がほぼ同ポイントで並ぶ。後期になって、卒業生や2年次生の話を聞けば、さらに目的意識や就職に対する意欲が高まるものと期待される。

今回追加した選択肢「以前からそうだ」に注目すると、「新聞を読むようになった」という項目が19名で2番目に多いことがわかる。基礎ゼミの効果によって新聞を読むようになった学生は少ないものの、以前から読んでいる学生は2割近くいることが判明した。また、将来どんな仕事に就けばよいかをすでに考えている学生が18名、自分のめざす方向が見えている学生が11名と、目的意識が明確な学生が比較的多い一方で、その日その日を楽しく生きようと以前から思っている学生が16名、自分の求めているものが依然としてわからない学生が15名、以前からあせりを感じている学生が11名と、かなり意識にばらつきがあることがわかる。後期に就職や編入をめざした具体的なプログラムが行われるので、これらの数値がどのように変化するのが注目される。

3. の基礎ゼミ全体についての感想に関しては、約9割が何らかの記述をしており、その8割以上が肯定的な内容であった。「短大生活を有意義に送れるような知識が得られ、他の授業では学べないことが学べて満足」「毎回、違

表4 (平成14年度)

2. 基礎ゼミを前期受講し、入学時と比較して、考え方に変化があったかどうかについて、0～4の該当する番号を選んで○で囲んで下さい。

4 非常にそうだ 3 かなりそうだ 2 あまりそうではない

1 全然そうではない 0 以前からそうだ

	4	3	2	1	0	無記入	加重 平均値
新聞を読むようになった	0 (名)	9	48	34	19	0	1.7
女性の生き方に関心を持つようになった	12	45	37	8	8	0	2.6
将来どんな仕事につけばよいか考えるようになった	31	42	19	0	18	0	3.1
その日その日を楽しく生きられればよいと思うようになった	18	34	32	10	16	0	2.6
フリーターでなく、きちんと就職したいと思うようになった	43	25	14	0	28	0	3.4
現在の自分に対して、焦りを感じ始めた	18	48	25	7	11	1	2.8
早く結婚して家事や育児に励みたいと思うようになった	8	22	48	26	6	0	2.1
自分のめざす方向性が見え始めた	7	17	60	15	11	0	2.2
自分の求めているものが何かわからなくなった	6	29	34	25	15	1	2.2
目標をもって残りの短大生活を送ろうという気になった	27	53	16	2	12	0	3.1
エイズや性に関する正しい知識や情報が得られた	32	53	14	2	8	1	3.1
セクシュアル・ハラスメントについて、意識が深まった	13	49	34	8	4	2	2.6
メイクアップについて関心をもつようになった	30	34	22	5	15	4	3.0

った内容で興味をもてた」「ためになった」「役立った」「自分の考えが変わったり、広がった」「どんな時代で、どんな状況におかれているのかがわかった」「将来について考えるようになった」などが典型的な内容である。一方、否定的なものとしては「興味のもてる回と、そうでない回があった」「堅い内容が多かった」などであった。

5. おわりに

基礎ゼミも2年目に入り、軌道に乗ってきたことがわかる。目的意識を促し、生き方について考える機会を与え、視野を広げて、学生生活を有意義にするという当初の目的はかなりの効果をあげてきたと考えられる。授業形態を学年全体とクラスルーム別とを組み合わせることで、授業に変化をつけることもできた。学外の講師、卒業生、在学生、学内の教員と多様な人材を活用することで、他の授業では実現できない多方面の情報を提供できたことも、学生の興味を惹きつけた要因であったと推測される。学生の意識や意欲にかなりばらつきがある現在の状況では、今後もこのように様々なプログラムを準備して、引き続き動機付けを行っていく必要があると考えられる。

今後いかに生きていくかという問題や、進路を決断する必要に迫られた時に、「基礎ゼミ」で取り上げた話題や考えた内容が「生きる力」として必ず役立つにちがいない。他大学でもこのような試みが実施されていると聞くと、大学と社会とをつなぐ役割として、この基礎ゼミのような授業が一層重視されていくと考える。

注)

- 1) 平成13年より、従来の3コース（秘書、情報、国際教養）に加えて、編入や資格取得などの多様な目的をもつ学生向きの、必修科目の少ない「教養コース」を新設したため、これまで就職希望が圧倒的に多かった学生の意識や興味が多様化した。

平成13年度アドバイザー 永田照子，菅田圭次，鈴木万里，大島 武

平成14年度アドバイザー 三井加寿恵，狩野一久，今村みゆ子，高木 聖

基礎ゼミを振り返って

1. 基礎ゼミで実施した以下の内容について、感想を次の番号で選び、該当する番号を○で囲んで下さい。

- 4 たいへん役に立った、または満足した
- 3 役に立った、または満足した
- 2 あまり役に立たなかった、またはあまり満足しなかった
- 1 役に立たなかった、または不満であった
- 0 欠席した

講演	レポートの書き方（大島）	4	3	2	1	0
講演	女性のライフコース（鈴木）	4	3	2	1	0
講演	カラーコーディネート（武居よし子氏）	4	3	2	1	0
クラス	情報収集と新聞の読み方（アドバイザー）	4	3	2	1	0
講演	進路を考える（三原由紀子氏）	4	3	2	1	0
講演	卒業生7名のお話	4	3	2	1	0
講演	卒業生（金融）のお話	4	3	2	1	0
講演	女性の仕事と職場（中井清隆氏）	4	3	2	1	0
講演	2年生体験発表会	4	3	2	1	0

上記の内容について、何か新しい発見があれば、書いて下さい。

他にどんな内容のお話を聞きたいと思いますか。

クラス _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____

2. 基礎ゼミを1年間受講し、入学時と比較して、考え方に変化があったかどうかについて、1～4の該当する番号を選んで○で囲んで下さい。

4 非常にそうだ 3 かなりそうだ 2 あまりそうではない 1 全然そうではない

新聞を読むようになった。	4	3	2	1
女性の生き方に関心をもつようになった。	4	3	2	1
将来どんな仕事につけばよいか考えるようになった。	4	3	2	1
その日その日を楽しく生きられればよいと思うようになった。	4	3	2	1
フリーターではなく、きちんと就職したいと思うようになった。	4	3	2	1
現在の自分に対して、焦りを感じ始めた。	4	3	2	1
早く結婚して育児に励みたいと思うようになった。	4	3	2	1
自分のめざす方向性が見え始めた。	4	3	2	1
自分の求めているものが何かわからなくなった。	4	3	2	1
目標をもって残りの短大生活を送ろうという気になった。	4	3	2	1

3. 基礎ゼミ全体についての感想を書いて下さい。

4. 次の行事について、よかった点、反省点、もっとこうしたらという提案を書いて下さい。

フレッシュマン・オリエンテーションキャンプ

よかったこと()
 反省点()
 改善すべき点()

エリアント祭

よかったこと()
 反省点()
 改善すべき点()
 改善すべき点()

前期基礎ゼミを振り返って

- 1 前期の基礎ゼミで実施した以下の内容についての感想を次から選び、該当する番号を○で囲んでください。

- 4 たいへん役に立った、または、たいへん満足した。
- 3 役に立った、または満足した。
- 2 あまり役に立たなかった、または、あまり満足しなかった。
- 1 役に立たなかった、または、不満であった。
- 0 欠席した。

講演「学問のススメ」(高木)	4	3	2	1	0
講演「レポートの書き方」(大島)	4	3	2	1	0
講演「女性のからだと健康」(岩室)	4	3	2	1	0
講演「キャンパス・セクシャル・ハラスメントについて」(三井)	4	3	2	1	0
講演「女性のライフ・コースを考える」(鈴木)	4	3	2	1	0
講演および実演「TPOに応じたメイク」(鈴野)	4	3	2	1	0
授業「情報の収集および新聞の読み方について」	4	3	2	1	0

(各アドヴァイザー)

上記の内容について、なにか新しい発見があれば、書いてください。

2 基礎ゼミを前期受講し、入学時と比較して、考え方に変化があったかどうかについて、0～4の該当する番号を選んで○で囲んでください。

4 非常にそうだ 3 かなりそうだ 2 あまりそうではない 1 全然そうではない
0 以前からそうだ

新聞を読むようになった。	4	3	2	1	0
女性の生き方に興味をもつようになった。	4	3	2	1	0
将来どんな仕事につけばよいか考えるようになった。	4	3	2	1	0
その日その日を楽しく生きられればよいと思うようになった。	4	3	2	1	0
フリーターでなく、きちんと就職したいと思うようになった。	4	3	2	1	0
現在の自分に対して、焦りを感じ始めた。	4	3	2	1	0
早く結婚して家事や育児に励みたいと思うようになった。	4	3	2	1	0
自分のめざす方向が見え始めた。	4	3	2	1	0
自分の求めているものが何かわからなくなった。	4	3	2	1	0
目標をもって残りの短大生活を送ろうという気になった。	4	3	2	1	0
エイズや性に関する正しい知識や情報が得られた。	4	3	2	1	0
セクシュアル・ハラスメントについて、意識が深まった。	4	3	2	1	0
メイクアップについて興味をもつようになった。	4	3	2	1	0

3 基礎ゼミ全体についての感想を書いてください。

クラス 学籍番号 氏名
